

**華麗な縄文土器『火焰土器』**（重要文化財；4月8日まで期間限定で展示中）

ここから、すべてが始まった。

70年以上前の昭和11年12月31日、新潟県長岡市馬高遺跡で一つの土器が掘り出された。後に復元され『火焰土器』と呼ばれる。口縁部に4単位の華麗な把手があり、盛り上がった隆帯と鋸歯状の突起を組み合わせるとニワトリの頭のような形（鶏冠状突起）を形成している。そして、その間の口縁の上端に小波状の突起（鋸歯状突起）がつけられ、これらが火焰土器の由来となっている。全面に装飾があるのだが、縄文土器であるのに、不思議なことに縄目による文様がどこにも存在しない。戦後、発掘調査が進み、同様な特徴を持つ土器が周辺に分布することが確かめられ、類似した「火焰型土器」だけでなく、鶏冠状突起がなく短冊状の突起をもつ「王冠型土器」も同時に出土し、一つのグループを形づくることがわかってきた。これらをまとめて「火炎土器」と呼ぶ。

火炎土器は、縄文時代中期の4800年前から5300年前にかけて、長くても数百年という短い期間使われていた。